

第10回衛星開発・実証小委員会 議事要旨

1. 日時

令和3年12月3日（金） 15：00～16：30

2. 場所

内閣府宇宙開発戦略推進事務局 大会議室（オンライン）

3. 出席者

(1) 委員

中須賀座長、片岡座長代理、白坂委員

(2) 事務局

宇宙開発戦略推進事務局 笠間企画官

4. 議事要旨

宇宙開発利用加速化戦略プログラムの戦略プロジェクトの進捗状況について、担当省庁から資料1に基づき報告された。各委員からの主な意見は以下の通り。

■衛星のデジタル化に向けた革新的FPGAの研究開発

- 開発後も民間による継続的な投資が必要。宇宙分野だけでは困難であり、自動車分野での開発、利用の見通しをよく確認しながら進めていくこと。
- 国際競争に勝てるよう、海外の動向を踏まえたベンチマークにおいて、スピード感を持って進めること。

■月面活動に向けた測位・通信技術開発

- 将来的には国際的な協業の中で行うもの。その際に、日本が先んじて実証を進めることで、議論のリーダーシップを取ることができる。
- 国際的なスタンダードを取るような勢い、スピード感が必要。そのためには、小さい実証から徐々にステップアップしていくようなアプローチが必要。

■月面におけるエネルギー関連技術開発

- 実証機を搭載する超小型衛星の開発自体がボトルネックにならないよう留意すべき。一度の機会で様々な技術をまとめて実証するなど、実証機会の提供をどうしていくかについても別途検討していくべき。

■宇宙無人建設革新技術開発

- 個別の要素技術テーマに細分化されているが、全体をつなげていくことが重要。
- 技術を実用につなげ、維持していくためには、地上利用も含めて継続的に使っていくという考え方方が重要。

■月面等における長期滞在を支える高度資源循環型食料供給システムの開発

- アルテミス計画全体のスケジュールを見ながら進めること。
- 地上へも技術還元できるように進めること。

■小型 SAR 衛星コンステレーションの利用拡大に向けた実証

- 本事業終了後に、各省の調達につなげていくことが重要。そのためには、本事業の中で、実際に各省が自分の仕事に利用していくことが重要。

以上